

第5回新市将来構想策定小委員会次第

日時:平成15年6月11日(水)

午後4時から6時まで

場所:長岡市役所大会議室

1 開会

2 報告

(1) 構成市町村長・議会代表者ヒアリング調査結果について

3 新市地域らしさ価値について

4 その他

5 閉会

長岡地域新市将来構想に関わる

構成市町村長・議会代表者ヒアリング調査結果

1 取材対象者と取材日時（敬称略）

| 地 域 | 氏 名 | 役 職 | 取材日時 |
|------|--------|----------|------------------|
| 長岡市 | 森 民夫 | 長岡市長 | 5月26日（月） 10時00分～ |
| | 小熊 正志 | 長岡市議会議長 | 5月29日（木） 9時00分～ |
| 見附市 | 久住 時男 | 見附市長 | 5月26日（月） 15時00分～ |
| | 伴内 勝栄 | 見附市議会議長 | 5月26日（月） 16時00分～ |
| 栃尾市 | 馬場 潤一郎 | 栃尾市長 | 5月29日（木） 14時00分～ |
| | 平林 豊作 | 栃尾市議会議長 | 5月27日（火） 14時00分～ |
| 中之島町 | 樋山 糸男 | 中之島町長 | 5月22日（木） 14時00分～ |
| | 五十嵐 亮一 | 中之島町議会議長 | 5月22日（木） 13時00分～ |
| 越路町 | 大野 勉 | 越路町長 | 5月22日（木） 10時00分～ |
| | 石坂 敏雄 | 越路町議会議長 | 5月22日（木） 11時00分～ |
| 三島町 | 遠藤 鐵四郎 | 三島町長 | 5月23日（金） 13時00分～ |
| | 大桃 健三 | 三島町議会議員 | 5月23日（金） 14時00分～ |
| 山古志村 | 長島 忠美 | 山古志村長 | 5月27日（火） 11時00分～ |
| | 関 正史 | 山古志村議会議長 | 5月27日（火） 10時00分～ |
| 小国町 | 大橋 義治 | 小国町長 | 5月23日（金） 9時30分～ |
| | 樋口 章一 | 小国町議会議長 | 5月23日（金） 10時30分～ |

2 内容別とりまとめ

(1)各市町村における「現状・課題・特性・資源」について

(長岡)

- 正確な情報を発信していくことが非常に重要である。交通至便、教育熱心、充実した福祉・医療、降雪量は少ない、地価が安く住みやすい等の重要事項が伝わっていない。
- 少子高齢化が進み、労働人口の減少が懸念される（2007年をピークに人口が減少）。
- 新潟県は、全国で中小企業倒産率ワースト5に入っている。
- 地理的な特徴として、東京から近く（新幹線で1.5h）北関東や長野・富山を含め、交通アクセスが非常によい。
- 市内を流れる信濃川は、文化的にも大きな恵みをもたらしてくれている。

(見附)

- 長岡・三条から30分、ICから10分、新潟市からは1時間以内という立地のため、優れた居住環境の提供地としてアピールしていきたい。
- そのため、ハード面ではランドスケープの整備、ガーデンを設けた住宅の販売、ソフト面では幼児教育や福祉、文化活動等に力を入れている。
- 特に、福祉面では「いきいき健康づくり事業」を展開しており、昨年一年間で60才以上の高齢者の平均運動能力が11才も若返った。
- 現在、産業団地を建設しており、転勤者に納得してもらえるようなまちづくりを行っている。
- 病院・買い物など長岡市を利用している市民が多い。特に見附市内の病院にはインターンが多い傾向があり、高度医療は長岡でないと受けられない。
- 見附市は、商業で発展してきた地域であり、保守的な新潟地域にありながら、積極的に新しいものを取り入れるという気質がある。

(栃尾)

- かつては織物産業が盛んであった（市の生産品の8割以上を占めた時期もあった）。現在は、織物産業は衰退して、雇用の場が確保できず、過疎の問題、所得の問題、税収の減少の問題がある。
- 長岡に買い物に出て行く割合が高く（70%以上）、商店街には活気がない。お金をかけるのではなく、巣鴨の地蔵どおりのように、気楽にいけて、お年寄りを対象とした商店街をつくりたい。
- 小千谷市、十日町（雪、議会の研修など）、見附市（同じ刈谷田水系。年1回の交流）、守門村（除雪）との交流がある。
- 戦前は繊維業が盛んで、町も潤っていた。（山に囲まれた盆地であり湿度が高かったことが繊維に良い影響を与えていた）
- 高床式の住宅が多く、お年寄りには不便である。
- 福祉施設として、グループホームが2、デイサービス・ショートサービス50床、老人ホーム90床がある。高齢者の社会参加としては、グランドゴルフ、ゲートボールなどがある。
- 山に囲まれた盆地で、自然豊かな町である。しかし、その立地上、冬季は、雪が多いので孤立してしまう。
- 鉱泉はあるが、温泉は出ない。現在では法改正が行われ、鉱泉を沸かせば温泉とみなされる。
- 水（おいしい水100選）と緑が豊かな地域である。雪どけの芽吹きは、素晴らしい。

- 昔に比べて積雪量は少なくなった。
- 秋葉神社を中心にした観光資源のネットワークづくりをしたい。
- 職業安定所はあるが、シルバー人材 600 人と、新卒より多い。

(中之島)

- 今までの行政圏(南蒲原郡)からの移行がうまくいっていない(電話の局番の違う地域もある)。医療・福祉など一部は三条圏にあり、まだすべてが長岡圏に移行できない。(いろいろな絡みがある)
- 8市町村が合併すると遠いというけれど、自動車では数分、電話やメールもある。今の時代は、便利になりすぎて地域のつながりが希薄になっている。
- 今は産業として農家は成立しない。(農家数の減少、機械の進歩により労働力が必要なくなった)昔は農業で生活が成り立っており、就労の場も充分にあった。
- 経済圏は完全に長岡にある。郊外が広がって発展してきた背景もあり、あまり不便さは感じていない。
- 財源の確保が難しくなってきたため、合併しなかったときのことを考えると心配である。(例えば、サービス水準の低下など)
- 農業の後継者問題や町に就業の場がないため、大都市に行った若者たちは戻ってこない。
- 今後も農業を大切にしていきたい。しかしながら、農業に対しては施策にする妙案がない。
- 生活の場としては優れており、道路により人や物の流通が成り立っている。昔から交通アクセス(川、港)により町が成り立ってきた。

(越路)

- 買い物、病院、勤めなど長岡への依存度が高い。
- 信濃川の大洪水により肥沃な大地が形成され、その結果として農業が繁栄した。
- しかしながら、今は衰退しており、農協と一体となり推進していきたい。
- 産業面では、特別に政策としてやっていることはないが、通年就業の場があるのは強みになっている。
- 越路町は天然ガスの採掘量が全国シェアの 50%強と日本一である。企業とのタイアップなど(朝日山酒造のカルガモ農法(無農薬農法)など)も、特性・資源といえる。
- 教育面では、外国人講師や中学生の海外交流(サイパン)など、最近になって結果が出てきている。(学力アップ)
- 33集落に区制度を設け、民意の吸い上げを行っている。この制度により、地域住民が自発的に考え、横の繋がりを大切にした地域コミュニティが形成されている。(行政と住民が密接である)
- 地域資源(自然を生かす: 蛍、雪祭り)を生かした観光ルート等を考えて、町の活性化に繋げていきたい。

(三島)

- 長岡市は、産業や施設が充実しているが、中越地区の核となるためには、視点をもっと外に向けた行動を起こすことが大切である。
- 病院・学校・買い物・文化など長岡に依存している傾向にある。他との交流はほとんどないのは自然の流れ。また、町民に対する意向調査では長岡との合併を望んでいた。(議会でも理解している)

- 高齢者の意見も大切であるが、今後の発展を考えると若い世代の意見を尊重することが大切である。
- まず、我慢強いが引っ込み思案な住民の意識改革をしていく。即効性はなくても効果が出るまで長い目で見えていく。外に目を向けて子供たちを育てたい。

(山古志)

- 純朴であるが、積極性に欠けている村民性を持つ。文化に親しむ機会も少なかった。
- 自分たちが行っていることが、文化的なものであるとの認識をもってもらいたい。文化的な香りがする地域としたい。
- 外から見た山古志村への意見を、村づくりに反映していきたい。
- 点でなく、線(周りの市町村との連携や協力、鯉や牛などの資源の連携など)で結びついていきたい。
- 闘牛は、農家の趣味的な飼育で、1年中の商売として成り立つためには頭数をそろえるなどかなりの投資が必要だと思う。
- 村民と同じ目線で観光できるように、牛飼いのための民宿を用意し、滞在型の観光へと転換していきたい。
- ここ5、6年は、2～3組などの少数のお客様を対象に、綱をつけたままで闘牛を行っている。(綱をつけたままなので、少人数の人員で対応できる。)
- 公民館事業としては、餅つきやかまくらづくり、田植え(50～60人の長岡技大の留学生(アジア、ヨーロッパなど)が手伝いに来た)などを行っている。
- 中山間地域に位置している。
- 棚田、錦鯉、闘牛などの伝統文化・資源を守っている人間が、資源だと考えている。
- 栃尾市と地域性が似ているので、交流がある。
- 錦鯉(発祥の地)、牛の角突き(年9回開催)、棚田、中山隧道(手掘りのトンネル。毎日トンネルまで歩いて元気になった地元住民もいる。湯布院の映画祭では、トリを務めた。)などの資源を、いかに連携してPRしていくかが今後の課題だと考えている。(8市町村でも見たことがないという人が多く、情報発信が不十分である。)
- 棚田での米生産はきついものがある。同時に溜池(鯉の養殖)によって、風景が守られている。
- 栃尾市とは、雪の条件も似ているので、交流がある。

(小国)

- 都会から見た農村のイメージがあり、農村文化・田舎暮らし体験“グリーンリース”が魅力となっている。また、森林公園など周辺地域からも喜ばれている。
- 平場はほとんど兼業農家なので、山地の専業農家に頼っている。このため、都会の人たちを受け入れる先の問題もある。
- 行政圏域としては柏崎市と交流が深く、生活圏域としては小千谷市との交流が深い。また、若者達は長岡に就労の場があり交流が深い。住民の置かれている立場により、それぞれどことの合併が良いのか意識が分かれてしまう。
- 行政で整備した施設(例えば小学校の統合など)が余ってくるが、用途変更するには行政制度を変えないといけないこともある。

(2) 今後への期待と懸念

- 合併のメリットとして、知名度が低い地域資源についても組み合わせや関連付けによって情報発信がしやすくなり、地域活性化へとつながる点が挙げられる。(例えば、長岡の花火大会で栃尾の油揚げ弁当を販売する等)
- 30万都市となることにより、行政執行能力が高まると共に、ネームバリューが上がることで工場誘致等の可能性が広がる。
- 高齢化対策としては、若者のレジャー指向を狙って呼び込むとともに、住みやすい都市としてアピールしていきたい。
- 地域が活性化するような、新しい産業起こしができることが合併のポイントと考えている。(開業率>廃業率を目指す)
- 周辺部の豊富な自然を活かした、フィールドミュージアムづくりとしてまとめると面白いのではないか(間伐材がエタノール原料となるなど周囲の自然は豊富な資源である)
- 安心で安全な、地域資源循環の仕組みづくりをポイントとして考えている(食品の安全など)
- 合併は、それぞれの地域の知恵を出し合って良いものをつくれるチャンスである。多様性は、起爆剤であると考えている。地域コミュニティへの助成も重要である。
- 合併の第一の目的は、広域的に見て重複する事業をなくすことでコスト削減を図ることであり、その次に、行政のコンパクト化によるコスト削減(リストラ)がある。
- 合併におけるデメリットについて住民を安心させる事を最優先とし、その次にメリットを説明することが重要である。また、メリットとしてダイナミックで無駄のない地域全体の事業を打ち出すことが望ましい。
- 合併した場合、見附市は、織物、ニット製品など、女性の人的資源が豊富であるため、新産業の創設に役立てると考えている。
- 産業の落ち込みを、交流人口を増やすことで、持ち直していきたい。(水と緑を活かした「農産物」、自動車部品工場と空調工場の「加工組み立て型産業」、「繊維産業の維持」の生産の三本柱と、「自然」を活かして交流人口を増やす。)
- 少子高齢化の心配があるため、広域圏にはきめこまかい住民サービスを期待したい。(小さい声が行政に届きにくくなるのではないかという不安がある)
- 緩やかな合併を期待する。この期間に不安を解消できればと思う。
- 新しい産業の創出を期待する。
- 商店街の活性化など、産業の復興のきっかけとなればと考えている。
- 家族制度の見直しや近所付き合いができるなど、原点に立ち戻る良い機会だと思う。
- 安心・安全に住める町としたい。
- 自分たちでは気づいていない良いことを、発見できるような合併であって欲しい。
- メリット・デメリットが表立っているが、あまり意識していない。長岡と合併したとしても、独自のものは残していく必要がある。
- 流通団地などにより企業誘致をはかっていきたい。
- みんなになんらかのかたちで“太陽”があたる町にしたい。
- 国からの交付税や町税が減少している中で、合併を視野にいれて考えて行かなければならない。合併については、8市町村の独自性を大切に、地域性を維持継続していくことが必要である。

- 前の合併時は首長と議会の判断により決定された。今回の合併では住民意向を尊重したい。すべてが良い方向にはならないし、我慢すべきところもあるが、首長・議会・住民の意思を統一して合併に望みたい。
 - 若者が集まらないような町には、人が集まらないと考えている。ボランティアが育つ地域（組織が出来上がるまでは助成すべき）としたい。相対的に全体を見て合併が良いのか悪いのかを判断したい。
 - すべてがうまくいく合併はないと思うが、8市町村で合併したい。長岡のベッドタウンとしての発展が望める。定住人口を増やす。
 - 高齢者の良い知識を受け継いで文化を残していくコミュニティの形成。特に若者の間では、隣近所との交流が減ってきている。
 - 合併は、村を再認識する機会だと考えている。競争社会に入ったときに適応できるかどうか心配である。
 - 産業が潤い、農業の後継者が定住できるような合併であって欲しい。
 - 安心で、安全で、潤う産業づくりをしたい。
 - 観光用に整備することと、本来の良さを失わないようにすることとの兼ね合いが重要である。
 - 合併しても、地域のブランドは残していきたい。（棚田で取れる米はおいしい）
 - 教育面では、人間性を重視した教育づくりをめざしたい。
 - 通勤としての位置付けにすると、過疎化が進まないのではないかと。
 - 広域の中でも、小さい自治体が知恵を出し合って切磋琢磨し、活気ある地域としていきたい。（人口の多い地域に投資し、地方の切り捨てに向かわないかという心配がある。）
 - 錦鯉や棚田、闘牛などの伝統文化は、合併したあとも自分たちの手で形作っていくつもりである。
 - 今後どんな形で地域コミュニティを活性化していけるのか。（人口は減少傾向にあり、高齢化して若い世代が定着しづらい）8市町村の公共施設を開放することによって、地域間交流に期待をしている。（現在、あまり交流がない）
-
- 安易な合併だと、地域資源が廃れかねないため、残していこうという意識、知ってもらおうという意識が大切である。
 - 目に見えるところは「インフォメーション」として与えられる。目に見えていないところは相手と「コミュニケーション」を取って補っていく必要がある。
 - 合併に際して住民が最も心配しているのは、周辺部がさびれる、各地域の個性がなくなってしまうという点である。
 - そのためには良いビジョンを打ち出すのはもちろんのこと、ビジョンを実現していく仕組みをどうするのか、誰が責任を持って実行するのか、誰が保障するのか、といった点について明確に提示する必要がある。
 - また、合併後は広域的な行政とともに、地域自治の仕組みも取り入れ、地域の個性を大切に作る、という担保がなければ住民の説得は難しい。
 - 合併は、地域の役割が明確になって、初めて実現するものだと思っている。
 - 除雪のサービス（個人負担なし）が合併後も受けられるかどうか不安である。（住民の不安は、日常的な不安である）
 - 地域の隅々までサービスが行き届くのか、地域住民への目配りができなくなるのではないかと懸念がある。
 - 地域自治については、審議機関的なものであるべきかどうか。しかし、あまり、権限を持ってしまうと問題であると思う。
 - 緩やかな合併を望む。急いでやることはない。
 - 財源に注目が集まっているが、効率化ばかり追いかけると、後々問題が生じることになる。まずは、意識の改革からはじめる必要がある。

- 平地部・山地部でも違いがある。特に山地部に対する優遇措置などはどうなるのか。
- 元々は国の財政から始まっているので、この合併自体は国が主体にあるように思える。また、“時代の流れ”によって合併しなければならない感じを受ける。(メリットが見出せず、“夢”がない)
- 合併エリアが広すぎる。まったく違う地域性(気候、産業、文化など)の8市町村を1つのエリアにすることは難しい点が多い。また、合併に向けて準備する時間も足りない。(今まで培ってきた地域性が崩壊するのでは)
- 現実的な構想は、財源が伴わないとただの夢物語に終わってしまう。(これでは、町民に説明できない)合併すると財政ポイントが下がり、インフラ投資について懸念がある。
- 地域の声を聞くと、中心は栄えるが周辺地域は寂れていくことを懸念している。(昭和の大合併時にいわれていた)周辺地域を見据えた合併構想が必要とされる。
- 今回の合併は時間が足りないこともあり、私たちも見えない部分がある。そのため、地域住民に伝えていくことが難しい。
- 自治権を強く持たせるのはあまり賛成できない。大都市では機能するが、30万都市では難しい。
- スケールが大きくなるメリットがある分、地域性に差があると、思いに違いが出てくるのではないか。
- 自分たちの地域の独特の文化や伝統が残らなくなるのではないか。
- 先送りにする問題をいつ解決するのか。新市のグランドデザインをリードするのは、どこになるのか。
- 地域間を公平にするための自治権の残し方はどうなるのかが心配である。
(人口2,300人の村としては、人口面から一律に考えた合併では厳しい立場になる。)
- 30万都市となっても、よほどの魅力がないと生き残れないのではないか。
- 合併後は、現在の除雪サービスが受けられなくなるのではないかという心配がある。(現在は、個人の住宅先まで除雪サービスを受けている。村の過疎化が進むにつれて、徐々にこのサービスが手厚くなってきた。)
- 小学校は5校が統合されて、生徒数は約80人である。村の福祉バスに頼らないと通学が確保できない状態であるが、合併後も維持できるかどうか心配である。
- 昔は周辺都市とも雪によって隔離されていた。今は“へんなかツーリズム”など都市交流(武蔵野市)に力を入れている。現状ある施策は今後も続けていきたい。
- この合併は時間が足りない。長い時間をかけて培ってきた地域コミュニティや独自性を大切にしていけるべきである。小国で大切にしてきたものをどう捉えていけるのか。(力を入れてきたものに補助が続けられるのか)

(3)長岡地域の今後のあり方について

- 地域資源を共有し、それぞれの地域の良さを最大限に活かして発展していきたい。
- 都市経営の視点を持ち、人口、産業の落ち込みにも対処していきたい。
- 子どもたち、お年寄りが笑顔で暮らせる仕組みづくりを行いたい。
- 教育面では、米百俵の精神にあるように、10年先を見据えた人材づくりを行っていきたい。
- 地域づくりのキーワードとしてテーマごとの「日本一づくり」を目指していく。
- 広域行政と地方自治の仕組みによって、各地域の良いものを拡大していきたい。
- 地域自治の仕組みを取り入れ、8市町村が一体となり、個として光り輝く新市の誕生を望んでいる。
- 市町村の特徴を活かし、相対的にバランスのとれた市であってほしい。全体の中でも、栃尾市の役割を担えるような合併でありたい。(栃尾市に織物を集約し、中之島は米を中心とした農産物のまちづくりを担うなど。)
- 将来的には、13市町村圏域で海や空港があるような地域としたい。
- 大都市になれば、行政と住民の隔たりは大きくなる。地域的な違いをどのように選択しながら指針を決めていくのか。
- 100年後の町をイメージして、自分たちがこうなりたいという可能性を追求していくこと。将来イメージを確立してから合併の方式も考えられる。
- 若者や女性の意見を取り入れて、新しい発想(我々とは違う視点でのアプローチ)が必要な時期にきている。
- 現状の広域行政の維持を基本として、合併スタイルを確立していく。特例期間(10年)を設けて、長い目で合併を見据えていくことが大切である。(例えば、地域に即した条例等を継続していくなど：必要性があるからこそ策定されている)
- 地域自治の確立なくして、合併の成功はありえないと考えている。
- 私の思い描く合併の姿としては“ゆるやかな合併”を希望している。
- 各々の特性を生かし、限られた時間の中で“ゆるやかな合併”でメリットのみを追求するのではなく、協調してできることを8市町村で分担していく。
- 小さな町ではできないことも、合併により足りない部分を補える仕組みづくりで、将来像に向かっていく。
- 8市町村で特色のあるものを大切にしていきたい。お互いが他の立場になって考えていくことが大切であり、優れているものの色分けをする必要もある。(残していくもの、協調していくもの)
- 8市町村での交流、その地域の習慣等も理解し仲間意識を持つことも大切である。自治権をそれぞれに持たせるか否か、持たせる場合は合併したときにうまくいくのか疑問はある。
- 長岡を中心としたスムーズな合併を成功させたい。また、三島郡の3町村も一緒に合併できれば、海(港)ができるのでなお良いと思う。
- 長岡市は、合併後、東京依存型の都市と、地方独立型の都市のどちらを目指すのかは大きな開きがあると思う。
- お互いの持っているものを大切に合わせる合併であってほしい。
- お金をかけなくても、意欲ある人がアイデアを出し合い、魅力ある地域としたい。お互いの地域の信頼関係が大きな要素である。
- ある程度の自治権・財政権を持ち続ける連合体として、それぞれが協調しあう合併が望ましい。広域での同一レベルでの合併は今の時代にそぐわない。(ヨーロッパスタイルの小自治制が望ましい)

(4) その他、合併に際しての意見

- 住民は、町のオーナーである。してくれることを期待するのではなく、自ら取り組んでいく姿勢が大事である。
- 見附市は文化活動・ボランティアが盛んな地域であり、10年続いている第9オーケストラや、語り部の会、見附の景観を撮影して紹介するビデオクラブ等が活動している。
- 語り部の会では、3年かけて見附市の宝物を紹介する手作りの「へそカルタ」を作成した。
- 大分県の湯布院のように、見て回る観光地としたい。例えば、自然豊かな地域であること、あぶらげや豆腐などの健康的な食事など、今あるものを活かし「健康的な観光地（スポーツ公園的なもの、登山など）」を目指した方策を考えていきたい。
- 公共物（ごみ焼却場など）に関してはお互いで共有し、伝統文化等に関してはそれぞれの地域で残すのがよい。
- 地方の議会での議論のために、編入か新設かの合併方式を早めに判断していただきたい。
- 8市町村合併後も港がない。やはり港がほしい。
- 8市町村の合併では海（港）がない。いずれは道州制になるのですが、もっと広域的（13市町村）な合併も今後は考えられる。
- 合併は、今の日本の流れを考えると、財政面から見てもいたしかたないと考えている。
- 村としては、新設を希望するが、編入だとしても地域を良くしていこうという思いがある。
- 合併したときのメリット・デメリットを町民に公開し、住民投票により合併の是非を決定する。
- 国からの声がありやっているような感じもあり、はっきりした将来構想がない。若い世代の立場になって今後20年なり50年なりの長いスパンで合併を考えていかないといけない。
- 議員の中でも大方が長岡との合併に異論はないが、この合併は“ロマン”がない。全体としてどんな町を作ろうとしているのかが見えてこない。（とは言え、自分たちで描いていくものでもある）

新市地域らしさ価値(ブランディング価値)の
構築に向けての調査結果と考察に関する資料

1. 地域アンケート調査結果の要旨…………… 1
2. 有識者ヒアリング調査結果の要旨…………… 2
3. まちづくりワークショップ検討結果の要旨…………… 3
4. 首長・議会代表者ヒアリング調査結果の要旨…………… 4
5. 新市地域らしさ価値(ブランディング価値)構築の条件・キーワードの検討…………… 6

2003年6月11日
長岡地域任意合併協議会事務局

1. 地域アンケート調査結果の要旨 (将来構想策定に関連する要旨のみを記述)

| 調査名 | CAN - 現状の強みを活かした実現可能事項 | WANT - 期待・希望やありたいと思う事項 | WILL - 実現すべき事項(顕在化事項) |
|-----------|---|---|--|
| | <p>今後、活用でき、活用したい地域資源・特色</p> <p>アンケート=主に「各種現状評価・優れた地域資源」より 取材調査=主として、「現状評価・地域資源評価」より ワークショップ=討議の前提となった地域認識・自慢より</p> | <p>根拠の有無を問わず、ありたいと思う姿や方向性</p> <p>アンケート=主に「今後の重要施策・大切な地域資源」より 取材調査=主として、「今後への期待・要望」より ワークショップ=最終報告に記載された個別要望事項等</p> | <p>左記を踏まえた上での、将来像のイメージ(断片) (調査・ワークショップで明示されたもののみ) アンケート調査=主として、「各設問の複合分析」より 取材調査=主として、「今後への期待・要望」などより ワークショップ=最終報告内容の要旨・ポイントより</p> |
| 地域アンケート調査 | <p>今後も維持・強化すべき地域特性</p> <p>地域の姿として=「安全・安心のあるまち」「地球に優しいまち」「人づくりのまち」</p> <p>地域パーソナリティとして=協調性があり、人情に厚い 地域の人柄・性格として=「慎重」「おとなしい」「粘り強い」「理論的実証的な性格」</p> <p>現状で評価できる行政施策</p> <p>「上下水道や集落排水施設の整備・充実」 「道路や橋・トンネルなどの整備・充実」 「ごみの回収・分別・リサイクル化」 「静かで落ち着いた住環境の整備」</p> <p>優れた地域資源</p> <p>「花火」 「信濃川などの河川」 「米(米作)」 「米百俵の精神」 「酒造」 「山岳と平野の変化に富んだ自然」 「山や森の緑」 「各地の伝統行事・祭り」 「雪景色」 「交通の利便性」</p> <p>優れた自然景観資源に恵まれ、地球環境対策にも一定の実績がある。</p> <p>米・酒などの農業に立脚した産物に優れている。</p> <p>交通アクセスも含めて住環境インフラに優れている。</p> <p>協調性や人情深いという地域パーソナリティは大切であり、教育や人材育成に関心が高い。</p> | <p>ありたい地域特性</p> <p>地域の姿として=「働きやすいまち」「高福祉のまち」「安全・安心のあるまち」</p> <p>地域パーソナリティとして=「積極性がある」「向上意欲がある」「チャレンジ精神がある」「責任感がある」「情報に敏感である」「活動的である」「リーダーシップがある」「自主性がある」</p> <p>今後期待し、重要と考える行政施策</p> <p>「組織の効率化などで行政経費を削減する」 「斬新なまちづくりや行政サービスを実施する」</p> <p>具体的施策としては 「地域医療体制の整備・充実・高度化」 「安全で安心できる防犯・防災対策」 「老人・障害者福祉施設の整備・充実」 「ごみの回収・分別・リサイクル化」 「老人や障害者に対する在宅サービスの充実」 「プライバシーや個人情報保護」 「河川や森林などの自然保護」 「道路や公共施設のバリアフリーの推進」 「公害防止や省エネルギー化への取り組み」 「地場産業振興や企業誘致などによる製造業の振興」 「商店街の活性化などの商業振興」</p> <p>大切な地域資源</p> <p>「花火」「信濃川などの河川」「米(米作)」「米百俵の精神」「酒造」「交通の利便性」「山岳と平野の変化に富んだ自然」「山や森の緑」「各地の伝統行事・祭り」「雪景色」</p> | <p>実現すべき新たな地域特性</p> <p>地域の姿として=「働きやすいまち」「高福祉のまち」</p> <p>地域パーソナリティとして=「情報に敏感で、積極的かつチャレンジングに活動し、向上していきたい」「自主性を持って責任のあるリーダーとして振舞いたい」</p> <p>地域の人柄・性格として=「誠実かつ実直な行動とそこから生まれる成果」</p> <p>特に注力すべき行政施策</p> <p>「働きやすいまち」を斬新かつ新しい施策展開によって、実現する</p> <p>「安全・安心」「人づくり」「地球に優しい」特性を維持しつつ、医療・福祉・環境関連施策を充実させる</p> <p>住民参加、地域文化・伝統の維持に配慮しつつ、各地域のバランスの取れたまちづくり</p> <p>地域資源の活用</p> <p>活用・強化=「花火」「信濃川などの河川」「米(米作)」「米百俵の精神」「変化に富んだ自然」「山や森の緑」「伝統行事・祭り」「交通の利便性」</p> <p>維持・強化=「教育施設・環境」「蛍の飛ぶ風景」</p> <p>活用検討=「酒造」「雪景色」</p> <p>アイデンティティやコミュニティ形成資源(上記に加えて)=「郷土の食べ物」</p> <p>産業振興資源(上記に加えて)=「電子・機械工業」</p> <p>各地域の文化・特性を尊重し、それぞれの地域資源を活かした地域振興策が望まれている。</p> |

2. 有識者ヒアリング調査結果の要旨 (将来構想策定に関連する要旨のみを記述)

| 調査名 | CAN - 現状の強みを活かした実現可能事項 | WANT - 期待・希望やありたいと思う事項 | WILL - 実現すべき事項(顕在化事項) |
|--|--|---|--|
| <p>有識者ヒアリング調査</p> <p>WANTとWILLの区分は主として発言者の希望として出された個別事項をWANT、必要なこと、あるべき姿として主張された事項をWILLとしているが、厳密なものではない。</p> | <p>今後に活かすべき地域の強みや特性</p> <p>製造業を中心とした産業基盤・技術の蓄積 整備された先進的な農業基盤 交通の便を生かした流通団地・住宅団地 多様な産業が、優秀な人材を資源に存在している。 文教都市・文化都市としての施設や基盤 教育環境、教育的歴史史跡と優れた郷土文化 人材が育つ風土と人材力</p> <p>地域活性化への住民の自主的な動き 繊維産業の新しい取り組み(高品質化・川下進出)や 事業主の自主的努力の姿勢 高齢化への取り組み</p> <p>活用すべき地域資源</p> <p>それぞれの自然・伝統文化資源 各種史跡や寺院・牛の角突き・錦鯉・中山隧道・棚田・ 鬼の穴伝説・雪解けの時期の新芽・山菜・水棲動物、 芝桜・かたくり群生・特徴的食物(とうがん・なんばん)・ 織物、手まり・鋸・和紙・その他</p> <p>地下資源(天然ガス)は大きな資産である。 食文化(米・酒・のっぺ・他)や食品加工文化(油揚げ・ 味噌など)、 雪(ウィンタースポーツ)や温泉の活用 豊かな水、きれいな土と水 恵まれた道路と交通網</p> | <p>産業関連</p> <p>「ものづくり」を中心とする産業振興・活性化 コンベンション・エグジビジョン都市としての可能性あり 農業基盤整備事業の継続 農産物の産直販売への取り組み 食品・農産加工開発 水棲動物の養殖販売 産官学の連携</p> <p>生活関連</p> <p>老人が住みやすく元気になるまちであってほしい。 老人ホームなど福祉の充実は必須(ボランティアの活用、 民間活動も含めて。) 8市町村相互の交流の拡大(スポーツ交流など。) 地域コミュニティ構築のための拠点整備。 地域密着型の発展が基本にあってほしい。 保育・育児の制度的支援 ごみの有料化 公共交通網の整備</p> <p>文化関連</p> <p>地域の文化を掘り起こして、共有し、それをコミュニティ 形成や活性化の材料にする。 地域それぞれの文化を結びつけて、より大きな価値を 持たせる。(大きなイベント+それぞれの祭り等。) 地域文化・伝統芸能の保存のための施設を。</p> <p>行政と住民</p> <p>住民の行動が重要であり、行政はそれを支援する。 多様性を前提に、個を大切に作る制度や行政を。</p> <p>その他</p> <p>長期的視点でじっくり取り組み、衣食住・観光での特色 づくりを。</p> | <p>ビジョンのあり方</p> <p>独自性のあるまちのデザインが必要 「環境重視の田園都市的発展」 産学共働による「県央中核都市」 「住む人に優しく、来る人に優しい」HUMAN CITY 新潟への対抗都市としての活性化は重要。</p> <p>個別事項</p> <p>工業都市としての発展(高付加価値化による優位性) 製造業の振興に向けた総合的な取り組み(知識・技術 の集中と産学共働による製品開発。) 大学も含めて産業人材の育成教育を行うべき(オリジ ナリティ・創造性のある人間教育、農業体験、郷土歴 史教育、地域産業理解。) 各地域のソフト・ハードを一つに結集して大きなパワー とする「学ぶ」「作る」を目的とする観光開発。 「食」をキーワードとする地域の活性化を 食の安全宣言、日常食の再発見と交流資源化 食文化・食の産業興しをはかるべき。 地域名を活かしたブランドの確立。 キーワード)きれいで豊かな水、便利で安全なまち、生 き生き女性。 各地域の多様な文化と自然の価値を尊重・活用する 観光産業開発へ。 滞在型リゾート(グリーンツーリズムなど。) 「民泊」「グリーンリース田圃」の活用による交流、交流 人口の拡大。</p> <p>留意点・その他</p> <p>官と民のバランスが重要「住民自治」の尊重 行政と住民の役割分担・関係を明確にする(民間でで きることは、民間で行う、など) 住民自身が価値観や自分の物差しをきちんと持つ。 それぞれの地域らしさ・地域の良さを活かした活性化 を図るべき。</p> |

3. まちづくりワークショップ検討結果の要旨（将来構想策定に関連する要旨のみを記述）

| 調査名 | CAN - 現状の強みを活かした実現可能事項 | WANT - 期待・希望やありたいと思う事項 | WILL - 実現すべき事項(顕在化事項) |
|---|---|---|--|
| <p>まちづくりワークショップ</p> <p>既出個別地域資源については略</p> | <p>今後に活かすべき地域の強みや特性</p> <p>「食」と「住」の充実した地域。 古き良きものがある。 伝統文化・歴史のある地域。 自然が豊かである。</p> <p>活用すべき地域資源 (他調査での既出地域資源を除く。)</p> <p>長生橋 悠久山公園 太平森林公園 各地域の野菜 中之島・見附の大凧合戦 中之島のレンコン 小国の銀杏・ぎんなんワイン 小国和紙 栃尾の油揚げ</p> <p>(その他多数 / 詳細ワークショップ報告資料参照)</p> | <p>産業関連</p> <p>働く場があること。 ブランド米の実現。</p> <p>生活関連</p> <p>里山の保存と教育の場での活用。 自然環境保全。 地域交通機関・道路(周辺部)の整備。 医療・教育の充実を。 都市機能の整備・充実。</p> <p>文化関連</p> <p>祭りと食による交流の拡大。 全体が集まれる大きな「祭り」をつくる。 「高齢者資源」の活用。</p> <p>行政と住民</p> <p>住民活動のネットワーク作り。 地域の情報発信・交換・共有ができること。 まちづくりの拠点、コーディネート機関の育成。 目的税の導入。 地区の自立と地区内の相互の助け合いの必要性 コミュニティの維持・活性化。 新潟県の中心都市 県庁の誘致。</p> <p>その他</p> <p>旧市町村の権限の一部を残してほしい。 東日本最大の歓楽街を作ろう。</p> | <p>総合的ビジョン・キーワード</p> <p>命を育みともに育つ。 山と里と都市の調和。 世界に向けて子供たちに誇れる地域。 自慢できるまち ゆるやかなつながりとパッチワーク型新市。 人が育ち、住民および出身者が「わ」を作っていくまち。 「和」「輪」「環」「話」「我」「沸」「WA」 ゆったりできて、包容力のあるまち 地域のパワーアップ。 未来を見つめ育てるまち。</p> <p>個別イメージ</p> <p>自ら考える住民になること。 心に刻む「ものがたり」ができるまち。 柔らかな住民参加・行政の仕組みづくり。 地域資源を活かす。 伝統と最先端技術のバランスが取れたまちにしたい。 地産地消の推進・実現。 循環型ネットワーク 古き良き時代を伝える 「ゆっくりズム」</p> <p>留意点・その他</p> <p>変わろうとしているときに、現行市町村の枠組みの中で の考察は不要である。</p> |

4. 首長・議会代表者ヒアリング調査結果の要旨（将来構想策定に関連する要旨のみを記述）

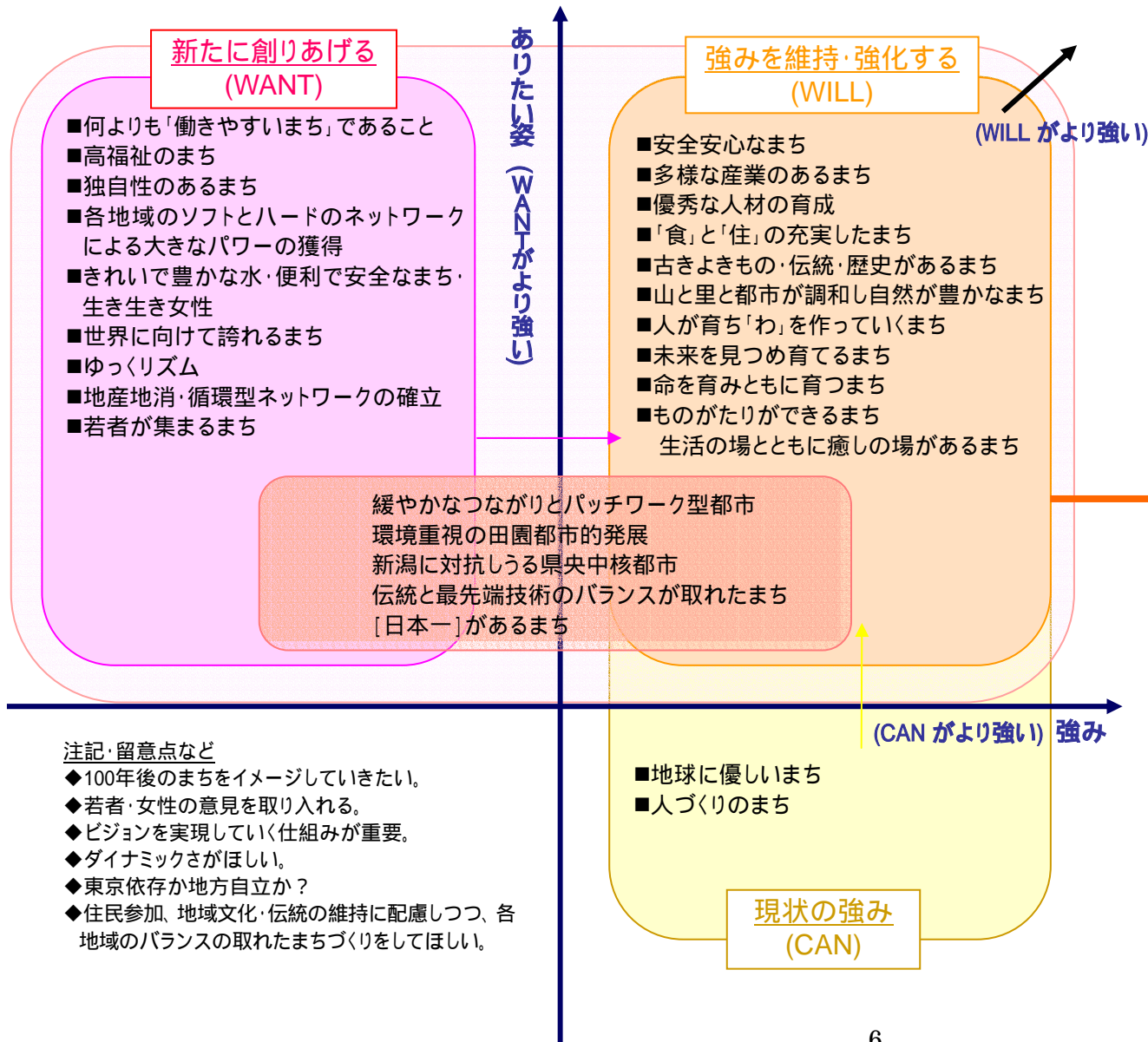
首長取材では、WANT(希望)とWILL(意思)は概ね一体化しているため、両者を一体化し、別途将来ビジョン全般についてのコメント欄を設けた。地域資源については、他調査で既出のものについては割愛している。

WANT/WILL 欄やコメント欄では、将来構想に関連するもののみとし、合併そのもの、および合併方式・自治組織に関するコメントは割愛している。

| 調査名 | CANの基盤となる現状の強み・実績 | WANT/WILL | ビジョンについてのコメント |
|------------------------|---|---|---|
| <p>首長・議会代表者ヒアリング調査</p> | <p>今後に活かすべき地域特性 (個別地域特性を除く)</p> <p>交通至便、教育熱心、充実した福祉・医療、地価が安く住みやすい。 優れた居住環境の提供地。</p> <p>信濃川は、文化的にも大きな恵み。</p> <p>保守的な新潟地域にありながら、積極的に新しいものを取り入れるという気質もある。</p> <p>織物、ニット製品などで活躍する女性の人的資源は、新産業の創設に役立てるはず。</p> <p>伝統文化・資源そのものと同時に、それを守っている人間が、資源だと考えている。</p> <p>今後にも活かすべき行政実績や住民の活動</p> <p>企業タイアップの実績。(酒蔵のカルガモ農法など。)</p> <p>外国人講師や中学生の海外交流。</p> <p>集落に区制度などによる地域コミュニティが形成。</p> <p>農村文化・田舎暮らし体験“グリーンリース”“へんなかツーリズム”など都市交流。</p> <p>文化活動・ボランティアの実績。</p> <p>ランドスケープの整備、ガーデン住宅の販売 幼児教育や福祉、文化活動等の実績。</p> <p>「いきいき健康づくり事業」の成功。</p> <p>産業団地転勤者に納得してもらえるまちづく</p> | <p>全般</p> <p>皆に何らかの形で“太陽”があたるまちにしたい。</p> <p>定住人口を増やす。</p> <p>地域づくりのキーワードとしてテーマごとの「日本一づくり」を目指していく。</p> <p>生活の場」と「癒しの場」など、役割分担が出来る市になってほしい。</p> <p>産業振興関連</p> <p>産業の落ち込みを、交流人口を増やすことで、持ち直していきたい。</p> <p>30万都市となることにより、行政執行能力が高まると共に、ネームバリューが上がることで工場誘致等の可能性が広がる。</p> <p>新潟県の中心に位置しているため、大規模なコンベンションセンター、ドーム、スポーツ施設を建設したい。</p> <p>流通団地などにより企業誘致をはかっていきたい。</p> <p>今後も農業を大切にしていきたい。</p> <p>雫田の地蔵どおりのように、気楽にいけて、お年寄りを対象とした商店街を作りたい。</p> <p>安心で、安全で、潤う産業づくりをしたい。</p> <p>産業が潤い、農業の後継者が定住できるような合併であるべき。</p> <p>地域が活性化するような、新しい産業起こしができることが合併のポイントと考えている。(開業率>廃業率を目指す。)</p> <p>新しい産業の創出を期待する。</p> <p>商店街の活性化など、産業の復興のきっかけとなればと考えている。</p> <p>観光関連</p> <p>地域資源を生かした観光ルート等を考えて、まちの活性化に繋げていきたい。</p> <p>滞在型の観光へと転換していきたい。</p> <p>点でなく、線(周りの市町村との連携や協力、観光資源の連携など)で結びついていきたい。</p> <p>豊富な自然を活かした、フィールドミュージアムづくりとしてまとめると面白い。</p> | <p>100年後のまちをイメージして、自分たちがこうなりたいという可能性を追求していくべき。</p> <p>若者や女性の意見を取り入れて、新しい発想が必要。</p> <p>地域資源を残していこうという意識、知ってもらおうという意識が大切で、地域資源を共有し、それぞれの地域の良さを最大限に活かして発展していきたい。</p> <p>若者が集まらないようなまちには、人が集まらないと考えている。ボランティアが育つ地域(組織が出来上がるまでは助成すべき)としたい。</p> <p>新市は、東京依存型の都市と、地方独立型の都市のどちらを目指すのかは大きな開きがある。</p> <p>ダイナミックで無駄のない地域全体の事業を打ち出すことが望ましい。</p> <p>良いビジョンを打ち出すのはもちろんのこと、ビジョンを実現していく仕組みをどうするのか、誰が責任を持って実行するのか、誰が保障するのか、といった点について明確に提示する必要がある。</p> <p>公共物(ごみ焼却場など)に関してはお互いで共有し、伝統文化等に関してはそれぞれの地域で</p> |

| 調査名 | CANの基盤となる現状の強み・実績 | WANT/WILL | ビジョンについてのコメント |
|-----|--|---|--|
| | <p>り。</p> <p>活用すべき地域資源 (他調査での既出地域資源を除く)</p> <p>水(おいしい水 100 選)と緑 秋葉神社を中心にした観光資源 鉱泉の活用(温泉化)</p> | <p>大分県の湯布院のように、見て回る観光地としたい。 「健康的な観光地」を目指した方策を考えていきたい。</p> <p>生活関連</p> <p>安心・安全に住めるまちとしたい。 安心で安全な、地域資源循環の仕組みづくりをポイントとして考えている。(食品の安全など) 高齢者にやさしいまち、福祉の充実した地域にしたい。40～50 代の層の人たちへの施設(生涯学習なども行える)が必要。 子供たち、お年寄りが笑顔で暮らせる仕組みづくりを行いたい。 お年寄りと若者とが共存でき、元気ある地域にしたい。 我慢強いが引っ込み思案な住民の意識改革。 外に目を向けて子供たちを育てたい。 高齢者の良い知識を受け継いで文化を残していくコミュニティの形成。特に若者の間では、隣近所との交流が減ってきている。 教育面では、人間性を重視した教育を目指したい。 米百俵の精神にあるように、10 年先を見据えた人材づくりを行っていきたい。</p> <p>文化関連</p> <p>自分たちが行っていることが、文化的なものであるとの認識を持ち、文化的な香りがする地域としたい。 小さな市町村で守ってきた文化を、30 万人で守ってくれているというふうにしたい。</p> <p>行政施策</p> <p>合併の第一の目的は、重複する事業をなくすことでコスト削減を図ること。 行政のコンパクト化によるコスト削減(リストラ)がある。 少子高齢化対応などきめこまかい住民サービスを期待したい。</p> | <p>残すのがよいのでは。 将来的には、13 市町村圏域で海や空港があるような地域としたい。</p> |

5. 新市地域らしさ価値(ブランディング価値)構築の条件・キーワードの検討



1) 新市イメージに関する 条件・キーワードの検討

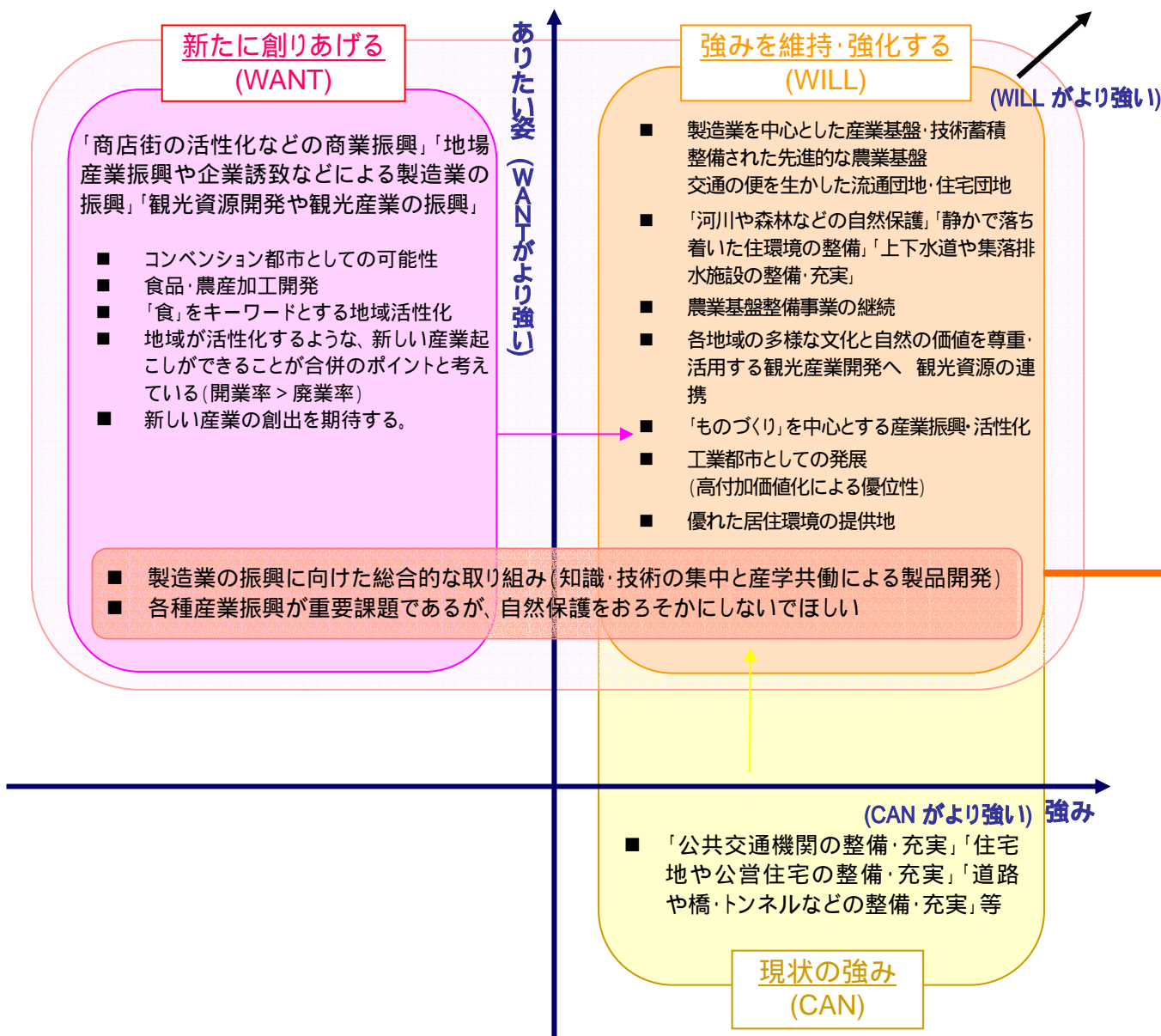
新市の内外に対する中心訴求ポイントとなるビジョン考察に向けて調査結果を抽出・分析すると、左記のようにまとめられます。

この結果を基とする考察から、ビジョン策定に向けた条件や盛り込むべき概念・キーワードとして重要と考えられるものは以下のようなものです。

- 1. 多様性**
多様な産業が存在（振興）していて、働きやすいまちである。
- 2. 調和**
各地域やそこに住む人はそれぞれ個性的であり、その個性が調和している。
歴史と未来が結びついている。（歴史の上に未来がある）
自然と人間の活動が調和している。
- 3. 独自性**
新潟市とは違った魅力と独自性がある。
- 4. 住みやすさ**
住民にとっては住みやすく、安全・安心なまちである。
- 5. その他のキーワード**
ゆっくりリズム・癒し・ものがたり、など。

注記・留意点など

- ◆100年後のまちをイメージしていきたい。
- ◆若者・女性の意見を取り入れる。
- ◆ビジョンを実現していく仕組みが重要。
- ◆ダイナミックさがほしい。
- ◆東京依存か地方自立か？
- ◆住民参加、地域文化・伝統の維持に配慮しつつ、各地域のバランスの取れたまちづくりをしてほしい。



2) 産業・都市基盤に関する 条件・キーワードの検討

新市の産業振興や都市基盤整備に関するビジョン考察に向けて調査結果を抽出・分析すると、左記のようにまとめられます。

この結果を基とする考察から、ビジョン策定に向けた条件や盛り込むべき概念・キーワードとして重要と考えられるものは以下のようなものです。

1. 製造業の再生

産業振興の中心は製造業の再生・発展であり、農業・観光・商店街活性化も期待がある。

2. 食による活性化

農業においては農業基盤整備と「食」をキーワードとする食品・農産加工などの高付加価値化に期待が高い。

3. 観光振興

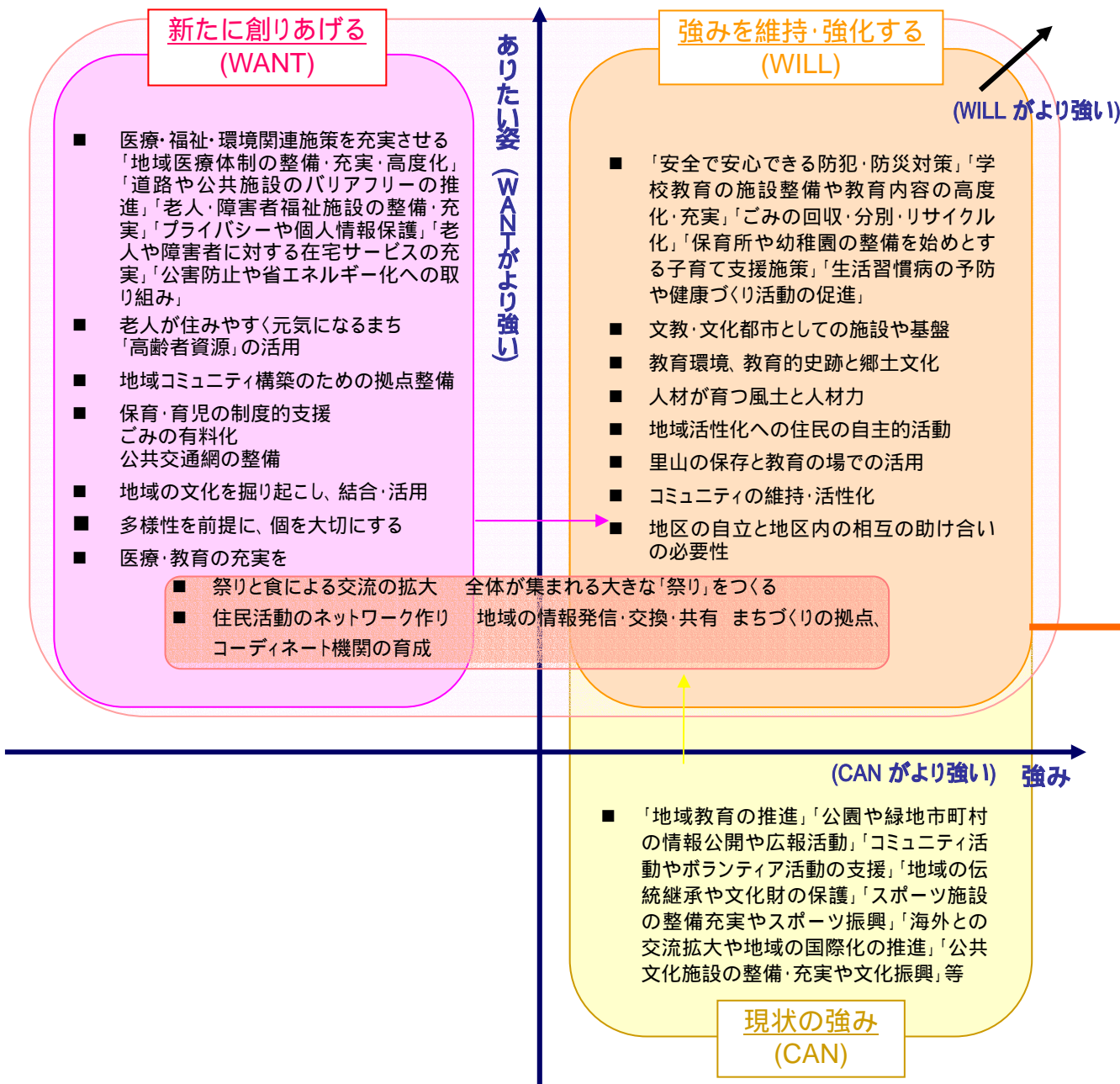
観光産業では、地域資源を活用した滞在型・参加型観光としての振興が期待されている。

4. 新産業育成

一方、新産業創出も期待されている。

5. 自然と都市の共存

都市基盤はある程度充実しているが、自然保護や生活基盤整備を中心に現行水準の維持・強化が求められている。

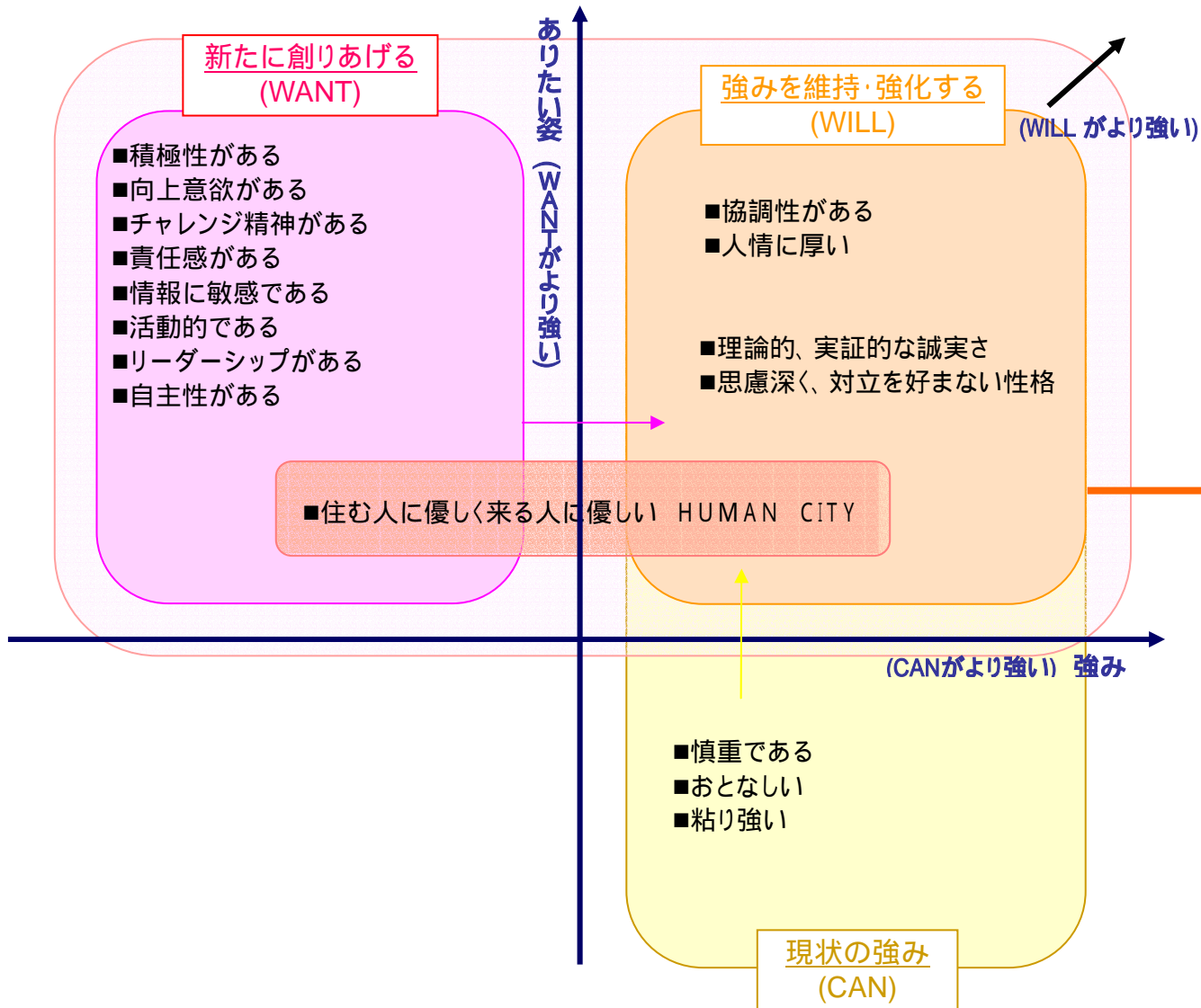


3)福祉・教育・文化(ソフト・行政 運営) に関する条件・キーワードの検討

新市の福祉・教育・文化および行政サービスなどに関するビジョン考察に向けて調査結果を抽出・分析すると、左記のようにまとめられます。

この結果を基とする考察から、ビジョン策定に向けた条件や盛り込むべき概念・キーワードとして重要と考えられるものは以下のようなものです。

- 1. 人材育成**
教育的環境・地域の伝統や史跡を生かした教育の充実。
- 2. コミュニティとネットワーク**
現市町村よりも小さな単位でのコミュニティ形成とその内外のネットワーク作り。排他的コミュニティではなく多様性を許容するものとして。
- 3. 地域文化保全活用**
地域の文化を保全すると共に、それを相互に結び付けてその価値を高める。
- 4. 老若共働**
高齢者への福祉ではなく、高齢者を「地域の資源」として、老若が共働するまちづくり。
- 5. 官民の協力**
住民自身の活動の重視。官と民の役割分担・協力。



4) 新市マインド(人間像)に関する条件・キーワードの検討

新市の地域個性に関する考察に向けて調査結果を抽出・分析すると、左記のようにまとめられます。

この結果を基とする考察から、ビジョン策定に向けた条件や盛り込むべき概念・キーワードとして重要と考えられるものは以下のようなものです。

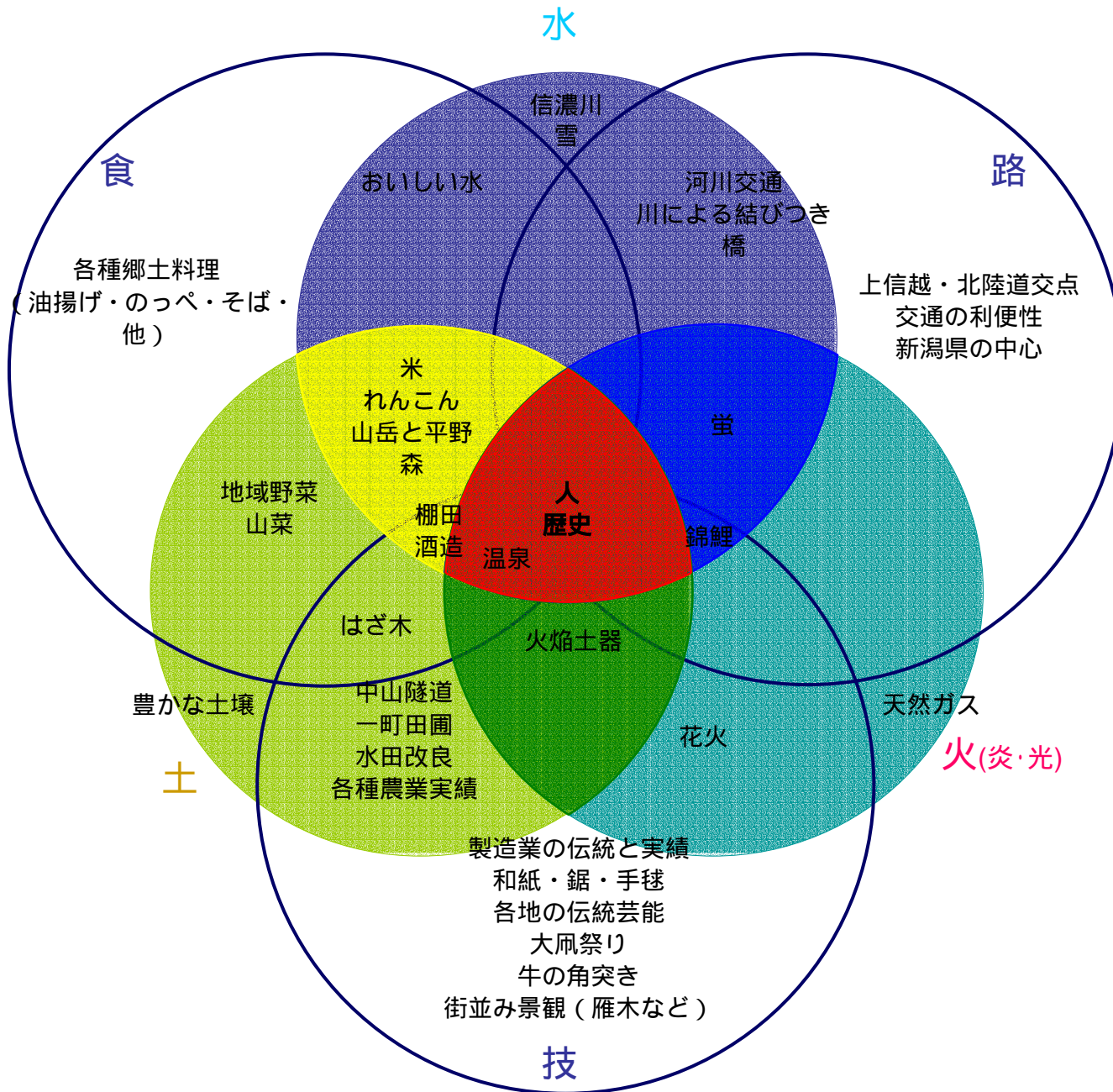
1. 地域内で自己改革的に進めるべきマインド(人間像)

基本的に現状の強みを維持強化しながら、住民が求める「情報に敏感で、積極的かつチャレンジングに活動し、向上していきたい」「自主性を持って責任のあるリーダーとして振舞いたい」姿をイメージしたビジョン設定。

ビジョン表現に、元気さ、おおらかさ、をイメージさせる。
2. 地域外へ訴求するマインド(人間像)

現状の強みを、ありたい姿と合わせることで、強みの積極面・自主行動面である「実証的・理論的な誠実さ」「思慮深く対立を好まない性格」の人間像をイメージしたビジョン設定。

ビジョン表現に誠実さ、素直さ、確かさ、をイメージさせる。



5) 地域資源活用に関する 条件・キーワードの検討

調査の結果から、将来ビジョンの裏づけとなる地域資源を抽出し、整理すると、左記のようにまとめられます。

整理の手順

1. アンケート調査上位項目だけでなく、今後地域外に対するアピール性があり、観光資源ともなりうる地域資源を広く抽出。
2. 地域資源の性格やイメージから、その相互関係を定めた。
3. 有効地域資源は、新市地域の「自然と人間の共創物」という観点(仮説)から、再配置し、総合化した。

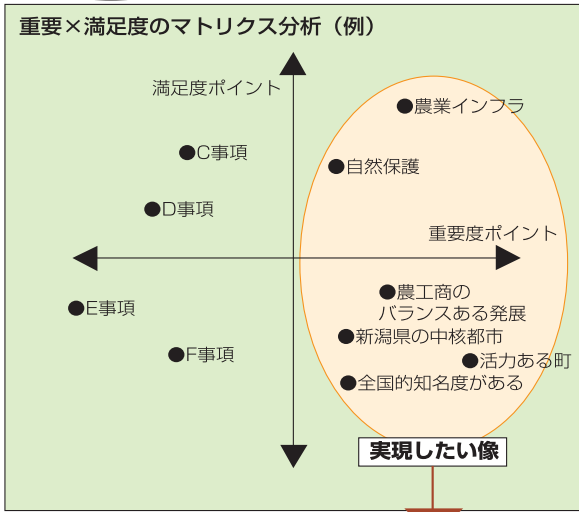
(左図はあくまでも総合イメージ図であり、厳密な対応関係を示すものではない。)

地域資源のポイント

1. 誇るべき地域資源は、「自然と人間の共創物」である
2. 地域の自然資源は「水」「土」「火」のイメージで総合的にアピールできる
3. 自然資源としての「水」「土」「火」に、文化資源としての「技」「路」「食」を加えることによって、地域資源はより高い価値を持つ



新市地域らしさ価値のモデル例



| | あまり優れてはいない | 優れている |
|--------|--|--|
| 大切である | <ul style="list-style-type: none"> ●雇用の確保 ●伝統と郷土文化 ●安全安心な街 <p>大切なもの</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●米の品質 ●交通インフラ ●棚田 ●教育水準 |
| 大切ではない | <ul style="list-style-type: none"> ●E事項 ●F事項 | <ul style="list-style-type: none"> ●教育水準 ●教育水準 ●教育水準 <p>競争力あるもの</p> |

まちづくりワークショップ
地域アンケート調査
有識者ヒアリング調査

Want 実現したい将来像 (の一例)

- ・全国知名度と活力のある中核都市
- ・農工商のバランスある発展と雇用確保
- ・伝統と文化がある安全安心な街

Can 実現可能な将来像 (の一例)

- ・優れた農業インフラと自然を活用した米作
- ・棚田・河川・自然景観の活用
- ・交通インフラを活用した工夫等が鍵となる

考察結果 (仮の一例)

Will 実現すべき将来像 (の一例)

- ・自然・安心・伝統文化の象徴としての米作
- ・米のブランド化と連動した農工商の発展
- ・ブランド米産地としての活力と知名度獲得

環境調査・分析結果 (例)

- ・WTO米関税引き下げ
- ・米価格の流動化が予想される
- ・消費者は国産・新潟米を好む
- ・最大の消費地は首都圏
- ・米は日本の主食であり、伝統文化でもある
- ・米の購買心理=味に加えて、安心安全さが関心事

認識検証

ブランディング価値確立

新市地域らしさ価値 (の一つ) 元気に満ちた米産地

- ・「米=主食=元気の源」として、新市を「日本を元気にする活力の発信地」として位置づける
- ・「米=日本の文化」として、新市が、自然・安心・文化を尊重する姿勢を明らかにする
- ・このイメージ施策によって、米の付加価値 (ブランド価値) を高め、新市産出米の競争力を強化する
- ・その他のビジョンと連動して、新市を「伝統を基盤としつつ競争力ある文化の発信地」としてブランディングする

長岡地域新市将来ビジョン=あるべき姿 (ブランドの意味を統合する)

新市=伝統を基盤としつつ競争力ある文化の発信地

新市地域らしさ価値 (ブランディング価値) 構築イメージ

まちづくり5ステップ

- 地域らしさ価値や将来像を考えるためのキーワードを、資料 (NO.2) から整理してみると以下のようになります。(現在の作業途中成果をご提示しています。6月11日現在)
- 各キーワードは等価ではありません。キーワードの妥当性と同時に重要性の検討が必要になります。

